

## 記念碑

松田家はこの地、岐阜県益田郡下呂町森一三〇三番地に屋号 阿多野あたのと称して、享保年間より代々住んでおりました。

〔最も古い方でお墓に圓壽院通翁浄久大徳享保四（一七一九）年十一月栄安父〕とあるため三〇〇年以上と推定されます。

翻って現代に話を戻しますと、私の父栄八は明治三十年に生まれ平成三年に九十三歳でなくなりました。

栄八は松田家の次男として生まれたこともあり、家業の農業を嫌って家を飛び出し、大正初めに岐阜市へ出て警察官となりました。（当時岐阜市に出たことは勇気ある行動でありました。）

明治三十七年から三十八年に起こった日露戦争で、松田家長男の平太郎が二十四歳で戦病死したことにより、栄八は下呂に呼び戻され、松田家並びに農業を継ぐこととなりました。

松田家を継いだ栄八は、野村きわと結婚し四男三女をもうけました。栄八は農業を好まなかったため、下呂役場に勤めるいわば兼業農家でありました。母きわは農業に励み、その傍ら苦勞しながらも四男一女を育てました。

栄八は子供には下呂を出て大きな都会で働くことを勧めました。

長兄 栄進よしのぶは国鉄に就職、戦争に行き支那（中国）、フィリピン、ベトナムを転戦しました。戦後、高山本線各駅長を歴任して定年退職したのち、平成二年に八十九歳で亡くなりました。

次兄 稔は日本発送電（中部電力）に就職、独力で大学卒相当の電気主任技術者第二種試験に合格、独立して中部電力の下請け会社りゅうでん（株）を興し、創業社長として同社を大いに発展させました。

三兄 正まさは下呂郵便局に勤めたのち、一念発起して名古屋に出て特定郵便局で修行し、愛知県江南市で特定郵便局長として二十年勤めて定年退職しました。成績抜群であったことから勲五等瑞宝章を受けました。九十二歳の今も健在です。

四男である私は末っ子であり、父、長兄の援助を受けて大学（中央大学法学部）まで学ばせてもらい、その後縁あって鈴木自動車工業（株）第二代社長 鈴木俊三、妻とし子と養子縁組をして長女祥子と結婚し、昭和三十三年（一九五八）年同社入社、昭和三八年に取締役就任し、昭和五三年から四十二年社長・会長を歴任して、社長就任時には三三三億円であった売上高を三兆円を超えるまでに成長させました。卒寿を迎えた現在も現役の経営者として会社を牽引しています。なお、日本では藍綬褒章、勲二等旭日重光賞を受け、インド、パキスタン、ハンガリーの各国からも民間人最高位の勲章を受けています。

長兄 栄進の長男 一美はその縁で鈴木自動車工業（株）に入社し、参与となったのち、関係会社社長を務めました。平成二四年に六十五歳の若さでこの世を去りました。一美の妻 泰子およびその子は下呂市に居住した経験が無く長男 知倫は一美と同じくスズキ（株）に入社し浜松に居住しています。

よって松田家は父栄八の望んだとおり、こども達は勿論孫たちも含めて全て下呂を離れて活躍しておりますので、現在は家屋を取り壊してお墓だけが残っています。

この碑を建立して松田家のいきさつを申し述べるとともに、下呂の親戚の皆様、全ての郷里の皆様、今まで大変お世話になりましたことへの心からのお礼を申し上げます。下呂の皆様は幸あれ。

二〇二〇年一月三〇日 卒寿を記念して

松田 栄八・きわ 四男 鈴木（松田） 修